



コンソーシアム・ウィーク2012 地域研究に 出あろう

地域研究は、広範な地域、分野にわたる専門家の連携によって新たな知を生み出す学問分野であるとともに、地域における開発や援助などの実践活動とも幅広く結びついています。地域研究コンソーシアム (JCAS) では、地域研究者や実務者の多様性を活かし、異なった立場にある人たちがゆるやかに連携することで、参加組織の知や資源をいくえにも活かす方途をさぐるとともに、それらを地域研究の新たな知や活力として社会と参加組織に還元することをめざしています。JCASでは、毎年11月頃にコンソーシアム・ウィークを開催し、年次集会やシンポジウム、ポスター・セッションなどをおとして、新たな地域研究を生み出すための出会いの場を提供します。コンソーシアム・ウィークのイベントには、JCAS加盟組織に所属している方もいない方も、個人として参加することができます。多くの方々のご来場をお待ちしています。



・関連シンポジウム 2012年10月27日(土)10:00-20:00

アジアのディアスポラ文学：日本とマレーシアの交流文学事例から
会場：立教大学池袋キャンパス太刀川記念館 3階多目的ホール

台湾海峡を挟みわゆる兩岸四地以外の非国語文学としての中国語文学や、作家が居住地の国語文学に参加する文学は、多民族社会のなかのディアスポラによる文学営為といえる。本シンポジウムでは、このうち日華文学と馬華文学をとりあげ、視野を日華文学と同様に見落とされがちな北東アジア圏の朝鮮半島における華人文学に広げつつ、文学性そのものだけでなく、移民社会と地域社会の変容、アイデンティティの葛藤、バイリンガルと文化移動、ネイティブとディアスポラなどのテーマを議論する。

- 講師：東北大学(講師・作家)田原
国士館大学文学部文科学科(教授・作家)藤田梨那(林叢)
中文導報(編集局長・作家)張石
国立華僑大学華文学院(教授・作家)林 祐
釜山大学中国研究学部(教授)金 惠俊
武蔵野美術大学造形学部(教授)廖 赤陽
大阪大学グローバルコラボレーションセンター(副センター長・准教授)宮原 暁
神戸外語大学アジア言語学科(専任講師)及川 茜
立教大学観光学部交流文化学科(教授)姦谷 鏡



※ 関連イベント 2012年11月4日(日)13:00~17:10

2012年度内陸アジア史学会大会

会場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)409室

公開講演

荒川正晴(大阪大学)
「前近代中央アジアの国家と交易」

研究発表

- 長峰博之(北嶺中・高等学校)
「カーティル・アリー・ベグとその史書について—ジョチ・ウルス「内部史料」の史的可能性とその歴史認識」
高本康子(北海道大学スラブ研究センター)
「大陸における対「喇嘛教」活動—滿洲国興安北省を中心に」
秋山徹(日本学術振興会特別研究員)
「ロシア統治下におけるクルグズ首領層の権威—遊牧世界とイスラーム世界のあいだで」

参加申込先：内陸アジア史学会事務局 siasmall@mail.goo.ne.jp
<http://nairikujia.sakura.ne.jp/SIAS/index.htm>

年次集会 / シンポジウム

会場：北海道大学スラブ研究センター4階大会議室 / 4階ラウンジ

・総会 2012年11月3日(土)10:00-12:05

- ・会長挨拶：宮崎恒二(JCAS会長)
- ・新規加盟組織紹介
- ・活動報告
- ・次世代ワークショップ報告
- ・地域研究コンソーシアム賞授賞式

・シンポジウム 2012年11月3日(土)13:30-18:00

地域研究と自然科学の協働：広域アジアの地域研究を例に

近年、海外での現地調査では開発や環境の問題が絡み、調査の際、自然科学的な知識やリテラシーが地域研究者に求められたり、逆に、地域研究の知識やリテラシーが自然科学者に求められることが増えている。また共通課題の下に、地域研究者と自然科学者が文理協同チームを組み、調査に当たる事例も増えている。しかし、地域研究者と自然科学者の協働は必要とされながらも、専門用語やディシプリン等の違いにより、両者の協働が進まない場合も少なくない。本シンポジウムでは、地域研究者と自然科学者の協働について、一般論に終始するのではなく、①ロシアの森林火災、②インドネシアの泥炭、③中東における砂漠化防止、④鳥インフルエンザへの対処を取り上げ、地域研究の側と、自然科学の側の取り組み双方の報告を踏まえ、両者の協働の可能性を議論したい。

課題1：ロシアの森林火災

自然科学の立場から：串田圭司(富山大学・極東地域研究センター)
地域研究の立場から：柿沢宏昭(北海道大学・大学院農学研究所)

課題2：インドネシアの泥炭

自然科学の立場から：大崎 満(北海道大学・大学院農学研究院)
地域研究の立場から：甲山 治(京都大学・東南アジア研究所)

課題3：北アフリカ(スーダン)における砂漠化の防止

自然科学の立場から：安田 裕(鳥取大学・乾燥地研究センター)
地域研究の立場から：縄田浩志(総合地球環境学研究所)

課題4：鳥インフルエンザの問題

自然科学の立場から：迫田義博(北海道大学・大学院獣医学研究科)
地域研究の立場から：櫻井健二(国際獣疫事務局・東京事務所)

コメント

自然科学の立場から：上田宏(北海道大学・北方生物圏フィールド科学センター)
地域研究の立場から：思沁夫(大阪大学・グローバルコラボレーションセンター)

全体討論

総括・閉会

・懇親会 2012年11月3日(土)シンポジウム終了後

会場：札幌アспенホテル(北大より徒歩で約10分) <http://www.aspen-hotel.co.jp/>
会費：5000円(予定)

・ポスター・セッション 2012年11月3日(土)13:30-18:00

